

# 北九州市立特別養護老人ホームかざし園

## 指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和2年10月16日（金） 18:30～21:00
- 2 場 所 北九州市役所庁舎 特別会議室A
- 3 出席者 (検討会構成員)  
中野構成員、中村構成員、丸林構成員、森野構成員、野村構成員  
(事務局) 保健福祉局介護保険課  
介護サービス担当課長、施設整備担当係長、担当職員

### 4 会議内容

- 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。
- 構成員の互選により、座長を選出
- 応募団体より提案内容に関するプレゼンテーション及び質疑応答

#### (1) 応募団体との質疑応答について

##### ア 社会福祉法人 北九州市福祉事業団

- (構成員) これまで、かざし園の指定管理を行ってきた中で、反省点や課題はあるか。
- (応募団体) 5年間の指定管理という制約があり、継続した運営ができるか不安はある。ご利用者やご家族も同じではないかと思うが、プロとして、できる限り不安を感じさせないようサービス提供を行ってきたし、今後も変わりはない。また、地域支援に取り組んでいるが、地域包括ケアにおいても大事な社会資源であるので、より一層、力を入れたい。
- (構成員) 多床室のメリット、デメリットについてどう考えているのか。
- (応募団体) 部屋を決めるときは、本人の自立支援という観点できめ細かく考えており、身体状況や認知症の症状等も考慮し、入所時に2週間程度、様子を見た上で部屋を決めている。状況によっては、部屋を変えることもある。入所申込時には、多床室であることを説明し、1人部屋はさびしい等、多床室が良いという意味がはっきりしている方に、申し込みいただいている。
- (構成員) 入所者に提供する7種類もの食事を、4名の調理員だけで準備できるのか。勤務形態はどうなっているのか。
- (応募団体) 調理員とは別に洗浄や消毒を専門で行う職員もいるが、大変な業務ではある。勤務形態は4週6休で、休暇や行事の際にはパート職員を補充している。
- (構成員) 若年性認知症ケアにも力を入れているとのことだが、今どれぐらいの利用者がいて、どのような点に力を入れているのか。また、心のリハビリについても教えて欲しい。
- (応募団体) 若年性認知症の方は、北九州市にも約250人いると言われており、相談を頂いた場合、専門の職員がアドバイスができるよう窓口を設けている。現

在、入所者にはいない。

心のリハビリは、外部の先生に心肺機能を高める為の療育音楽の指導をしてもらったり、昭和の日を月に1回設定し、懐かしい映画を上映するなど、一人一人に合った活動に参加できるように、7種類実施している。

(構成員) 感染症への対策として、現在どのような対策をしているのか。

(応募団体) 利用者やご家族にとって面会は重要なことであり、最も流行していた時期は行っていなかったが、現在は、1週間に1回、15分という制限で行っている。その際は、検温、手洗い、手指消毒をしていただき、マスク着用の上、1フロビーでパーテーション越しに実施している。

(構成員) 看取りを行うときには、ご家族の方と共に別室で過ごせるようなことも考えているのか。

(応募団体) 年間2~3名の看取りを行なっている。看取りの際は、専用室で一緒に寝泊まりして、最後の時間を過ごせるようにしている。24時間いつでも来て会えるよう対応している。急変があれば、オンコール体制で看護師が対応するようにしている。

(構成員) 専門職の養成について、資格取得など自己啓発に補助を出す等、力を入れているが、その成果はあるか。

(応募団体) 資格取得のため、毎年職員が自主的に受験対策講座を開催している。合格率については、7割の時もあったが、概ね4割程度である。働きながら勉強することは大変難しく、参考書購入の補助を出したり、受験対策の勉強の機会や時間を確保するなど、職場全体で、法人としても、できる限り応援している。

(構成員) 特養の経営は、かざし園だけであるが、適切な人材養成が可能なのか。

(応募団体) 特養の経営は、かざし園のみであるが、認定調査等の様々な高齢者介護関連事業を行っている。一つの職場において専門的な知識、スキルを磨くというメリットもあると考えている。

(構成員) 市への納付額について、1年目は約130万円の納付が予想されているが、その後減少し、最終年は約15万円になっている理由は何か。

(応募団体) 職員を固定し、定期昇給を考慮し計算した結果であるが、実際は異動等があるため変動する。

## イ 社会福祉法人 暁会

(構成員) 今回の提案内容で、特に力を入れる点は何か。

(応募団体) これまで様々な地域で、その地域の方々と話をする中で課題を見つけ、ともに解決していこうという意識で運営しており、これが地域貢献の一步であると考えている。例えば、通いたくても通えない高齢者を認知症カフェまで送迎するなどし、地域との関わりを大切にしている。かざし園においても、このようなノウハウを活用し、地域貢献に取り組んでいきたい。

(構成員) 次世代の人材養成のために、どういうことが大切だと考えているのか。

(応募団体) 人に何かしてあげたい、という思いが大切である。中学生や高校生のような若い世代に、まずは福祉、介護に関心を持っていただく。介護体験等いろいろなセミナーを通して提案できるといい。

- (構 成 員) 今の小中学生が就職する将来を見据え、ICTを積極的に取り入れたり、リハビリスタッフを有効に機能させる考えはあるか。
- (応募団体) ICTの活用では、別の特養で、睡眠見守り支援機器を導入している。職員の負担軽減と、利用者が安心して睡眠できる環境を作ることが出来ている。また、リフトやスライディングボードを活用した、抱えない介護も重要で、リハビリ職員が関わりながら、行っていく必要があると考えている。今回の提案の中でも、車いす等の移動補助具をそれぞれの体に合ったものをレンタルで提供することになっている。
- (構 成 員) 寝たきりにさせないための、具体的な取り組みはあるか。
- (応募団体) 日中は起きて、夜は眠るというのが自然のリズムである。日中、陽に当たることで、睡眠状況が改善したという研究事例もあり、それを支える移動しやすい道具も重要と考える。興味を引くようなレクレーションも大切である。
- (構 成 員) 3交代勤務を実施しているということであるが、夜間のみ担当する職員もいるのか。職員の雇用には支障は無いのか。
- (応募団体) 夜勤専門の職員もいる。勤務時間は8時間である。日勤職員と勤務時間を重複させることで、引継ぎを行う時間を設けている。3交代であれば働けるという子育て世代の女性職員もいるのでかざし園でも導入したい。
- (構 成 員) 選定された場合、現在、かざし園に勤務する職員を優先して採用することであるが、不足する場合はどのように人員確保する計画なのか。
- (応募団体) 現職は希望があれば、最優先で雇用したい。介護職は容易に集まらないのが現状であるが、紹介や求人サイト、法人内職員異動も含めて確保したい。
- (構 成 員) 貴法人で、特養と医療機関が実際に連携したような事例が他にあるのか。
- (応募団体) 下関の特養でも、かざし園で予定されている医療との連携体制が既にあり、回復後の早期退院、入所ができています。また、入院中リハビリに特養職員が関わることで、特養に戻ってからのリハビリがうまくいくようにしています。
- (構 成 員) 資金収支計画書の給食費250万円は、どのような内容か。
- (応募団体) 経管栄養及び非常食に要する費用を計上している。
- (構 成 員) 2年連続で当期繰越活動増減差額がマイナスになっている理由は何か。
- (応募団体) 昨年度は、東京に開設する特養の建築費の支出があり、一昨年度は他の施設の空調設備の大規模修繕を行ったためである。
- (構 成 員) 特養あかつき苑の収支がマイナスとなっているが、今後も同様なのか。
- (応募団体) あかつき苑については、入所者が区民に限定されており、受け入れの連携が上手くいかず、昨年度は入居率が下がっていたが、現在は入居率が98～99%になり改善している。
- (構 成 員) 現在かざし園には、清涼飲料水の自動販売機設置が設置されているが、自動販売機設置についての提案がなされていない。設置しない理由は何か。
- (応募団体) 選定されれば、職員や入所者の意向を踏まえて検討したい。
- (構 成 員) 介護職員をどのように育てていこうと考えているのか。
- (応募団体) 現状において、新採職員は中堅職員がマンツーマンでOJTを行なっている。中堅職員にとっても自分の知識や技術を見直す機会となり、相乗効果を生んでいる。
- (構 成 員) 現在運営している施設で、職員確保はできているのか。また、海外からの人材を採用しているか。
- (応募団体) 職員確保は出来ている。海外人材は、下関の特養や東京でも採用している。

(2) 構成員の意見交換について

- 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自採点。各構成員の採点結果を発表し、構成員全員で意見交換。

○ 意見交換概要

① 社会福祉法人 北九州市福祉事業団

- ・これまでの実績と確かな管理運営体制を基に、総合的に手堅い提案内容となっている。今までの運営をどう評価しているのか、明確であればより良かった。
- ・地域に根差した様々な事業に取り組んでおり、熱意が感じられる。
- ・人材を有効に活用しながら、利用者に寄り添った、きめ細かいケアが提案されている。
- ・アナログ的と言えるかもしれないが、安定感を感じる。新しい取り組みも必要だが「受けたい介護」というものは変わらない。
- ・ターミナルケアや認知症対策の取り組みも評価できる。

② 社会福祉法人 暁会

- ・隣接する門司病院をグループ法人が運営していることから、医療と介護の連携を行いながら運営したいという意欲を感じるし、大きなメリットである。
- ・3交代制を実施する等、勤務形態を工夫し、夜勤者の負担軽減や離職防止を図っている。また、子育て中の職員が働きやすい環境づくりに努めている。
- ・施設運営の実績もあるが、提案書の内容が、一般的な話になっており、もう一つ物足りなさを感じる。

○ 検討会としての検討結果（総合的な所見）について

- ・社会福祉法人北九州市福祉事業団は、長年にわたり特別養護老人ホームかざし園の管理運営を行っており、指定管理者としての十分な実績がある。その実績に基づいた提案は、具体的で説得力がある。一方、社会福祉法人暁会は、隣接する市立門司病院の現在の指定管理者がグループ法人ということで、医療との連携について期待でき、意欲の高さも感じられたが、提案項目の内容が一般的な内容となっている。検討会としては、各構成員の評価・合計得点が高くなっている、社会福祉法人北九州市福祉事業団が指定管理者として相応しいと判断する。

- 意見交換を行った後、各構成員の採点結果を取りまとめ、検討会を終了した。